

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 橋本市立 紀見小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒648-0097

和歌山県橋本市柿の木坂25-1

E-mail kimi@hashimoto.ed.jp

Website <http://www.edu.city.hashimoto.wakayama.jp/kimi-es/index.html>

幼児児童生徒数 男子 182名 女子 170名 合計 352名

幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

概要

- 本校では、持続可能な社会を形成していくための主体的な力の育成を目指した取組を推進する。
- 授業においては、環境教育・福祉教育・防災教育を軸とした実践を展開する。
- 児童に市民性を育てるという視点に立ち、人権を重んじながら児童会活動などの児童の自治活動を推進する。

目的

- 環境教育・福祉教育・防災教育を中心に体験的な活動を豊富に取り入れながらE S Dを推進する。変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体のバランスがとれた児童を育てる。
- 児童が、国際的な視野に立ち、地球規模で環境や福祉について考え、社会に貢献する。

○自校の取組を発信し、他の地域の人々と交流する中で、相互の理解を深めながら繋がりを強め視野を広げていく。

① 環境教育に係わる活動

環境教育は、主に4年生が中心となって、社会科や総合学習と連携させて、水の問題やゴミの問題等について課題を見つけ、自分たちができることを考えていく活動をした。3Rについての意識を高めたり、紀見小のエコプランを作成したりした。

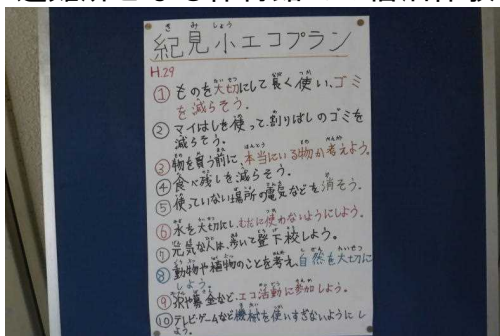
② 福祉教育に係わる活動

福祉教育は、4、5年生で行う。4年生は、障がい者の理解を中心にして、市の社会福祉協議会と連携して、視覚や聴覚に障がいのある方々との交流を通して、手話や点字の必要性を感じたり、キャップハンディ体験を通して、体の不自由な方のことを理解して自分たちにできることを考えたりした。

5年生は、高齢者福祉を中心に学習し、近隣の高齢者福祉施設を訪問させていただき、実際に高齢者の方々と交流することにより、より理解を深めることができた。

③ 防災教育に係わる活動

防災教育は、6年生が中心になって行う。主に地震発生による災害を想定して、災害への備えや災害発生時の対応について学習する。例年9月には、地域と連携して防災キャンプを実施している。防災キャンプでは、6年生が学習したことをプレゼンで発表したり、体験ブースを運営したりした。また、避難所となる体育館での宿泊体験も行った。



紀見小エコプラン



4年 キャップハンディ(車いす)体験



5年 高齢者福祉施設訪問



6年 防災キャンプ

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・ ESD(持続可能な開発のための教育)推進の手引き(初版)
- ・ ESD QUEST きみが世界を救う!
- ・ ユネスコスクール公式ウェブサイト 等

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

授業においては、教員が環境教育・福祉教育・防災教育をテーマにすることを柱に、主体性をもって学ばせる授業展開を工夫してきた。このことに加え、児童が各教科・特別活動・総合的な学習の時間を中心に、全領域で主体的に学び行動できるよう授業のあり方を追究してきた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

管理職が代わっても本校のユネスコスクールとしての ESD の取組が継続されるように、十分な引継を行うことに努めた。また、校務分掌では、総合的な学習の時間の担当者が中心となって、年間指導計画の見直しや活動の啓発を行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

・ここ数年の取組を通して、他の学校や地域や家庭からも「紀見小学校は、県内でも数少ないユネスコスクールとしての活動を盛んに行っている学校だ」との評価をされるようになってきている。
・課題としては、マンネリ感が漂って停滞しないために、新たな考えや取組の導入を図りたいところだが、思うように進まないところである。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

・各活動については、学校のホームページや学校だより等で各家庭や地域に発信している。環境・福祉教育の取組の一環として、「アルミ缶を収集して、利益で車いすを寄贈する活動」をしているが、地域の方々も賛同して多くのアルミ缶を持ってきてくれる。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

・橋本市教育委員会が間に入ってくれて、奈良教育大学のESDコンソーシアムの活動に参画している。奈良教育大学の中澤静男准教授が中心となって開催してくれている「ESD連続セミナー」に毎年教員を参加させてもらい、ESDに対する認識を深めている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

・昨年度までは、奈良教育大学のESDコンソーシアムの活動として、奈良市内の小学校とお互いの学校を訪問して取組を発表し合う等の交流をしていたが、今年度は、予算の関係からか交流を図ることができなかった。
・国外とのネットワークはない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

・特に6年生が行う「防災キャンプ」の取組は、他の学校や本校の家庭や地域からも注目と共に評価もされており、地域の防災教育のモデル校的存在となっている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

・29年度末の異動により校長が定年退職を迎えるので、管理職の体制が変わるのは間違いない。十分な引継をしてユネスコスクールとしての取組を発展させていきたい。
・環境教育、福祉教育、防災教育を取組の中心に据えることは継続するが、SDGsについての認識を深め、それぞれの目標についても必要に応じた取組をしていかなければならないと考えている。